

広報ただみ診療所

朝日診療所
医師 菅家智史



「退任のご挨拶 - 4年間の只見勤務を振り返って -」

医師の菅家です。広報ただみへの寄稿は久しぶりになります。今回は、この場をお借りして3月末での退任のご挨拶をさせていただきます。

振り返れば平成23年4月、東日本大震災の混乱の最中に只見町へ着任しました。平成24年からは福島県立医大の教員も兼務となり、只見町と福島市を行ったり来たりの生活をしつつ、朝日診療所での勤務を続けてきました。昨年まで家族も一緒に只見町に住んでおり、家族の入院などもあり大変なこともありましたが、近所の皆さんはじめたくさんの方々に支えていただき、これまで勤務を続けることができました。

私は朝日診療所に来る前の4年間、福島医大の研修プログラムで「家庭医療」という分野を学びました。幅広い症状に対応することはもちろん、家族や地域文化などの社会背景をふまえ、患者さんやご家族の気持ちや希望を考慮して医療を提供することを学んで朝日診療所へ赴任しました。実際に働いてみて、朝日診療所は只見町にはなくてはならない施設だと感じる一方、現状は住民が頼れる診療所になりきれていないとも感じています。昨年常勤医師が減少し、住民とのつながりが少なくなり診療所の医師がどんな人なのかわからない、診療所で何ができるのかわからない、という状態になってしまったのが理由の1つだと考えます。今後あらためて住民の皆さ

んとのつながりを強くしていこうと、若山所長をはじめ朝日診療所職員はすでに動き始めています。住民の皆さんにはぜひ「おらが町の診療所」として診療所に興味を持っていただき、調子が悪い時など気軽に相談していただければありがたいです。

全国的に医師不足はまだ改善の兆しが見えません。そんな中、24時間365日の診療受け入れを行っている診療所は県内でも朝日診療所だけです。どうしても年度ごとに医師の交代があり、住民の皆さんにがっかりされてしまうのですが、医師不足の現状では医師が切れ目なく配置される状況を維持することが重要です。医師交代の一環で若い医師たちが赴任することがあると思います。見た目ではベテラン医師のほうが信頼できるように見えると思いますが、若い医師たちは熱意と体力と豊富な知識を持って只見町に赴任してきます。至らない時にはお叱りを、お役に立てた時にはありがたいの一言を「只見の医師」にいただければ、彼らはみなさんの期待に応えようと好循環が生まれます。ぜひ叱咤激励をよろしく願います。

4月以降は福島医大の教員として、医師や医学生の教育が仕事の中心になりますが、また機会があれば只見町で仕事をさせていただけたらと思っています。

それまでどうぞお元気で!

地域おこし協力隊として vol.9 只見町教育振興協力隊 末谷 広大

『別れの春…、始まりの春…。』

3月1日卒業式、只見高校の3年生はそれぞれの未来へと旅立って行きました。只見町の山村教育留学生の7人の3年生も大学や専門学校など、まだ見えぬ未来へと、在校生に見送られ、応援され、旅立って行きました。

今まで賑やかで、どこかピシッとした空気を漂わせていた奥会津学習センターも、どこかしみりとした雰囲気を感じています。それは、これまで学校生活に限らず、寮生会でみんなの意見を取りまとめてくれたり、R289フルコース踏破や町民運動会、只見ふるさとの雪まつりなどに積極的に参加し、活気あふれる姿を見ることが出来たからなのではないのでしょうか。

しかし、別れがあれば出会いがあるもの。来月の4月

になればまた新たな新入生が入り、現在の2年生が最上級生として、また山村教育留学生の皆さんを盛り立ててくれると思います。

卒業生の皆さん、皆さんはきっと他の学校の誰よりも「心」が成長しています。胸を張ってください。皆さんの未来は後輩や学校の先生、家族だけでなく、教育委員会やこれまで関わってきた只見町の皆さんが応援しています。



▲卒業を迎えた第11期山村教育留学生の皆さん